

◆ 今週のコメント

- ・ **新型コロナウイルス感染症**の報告が20例(男性12例(10歳代2例, 20歳代5例, 30歳代1例, 40歳代2例, 50歳代1例, 70歳代1例), 女性7例(10歳代2例, 20歳代3例, 30歳代2例), 性別及び年齢非公開1例)あり, 本年の累積報告数は21,181例になりました。
本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
- ・ **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**の報告が2例(60歳代男性, 20歳代女性各1例)(第49週追加報告分含む)ありました。本年の累積報告数は41例となりました。
- ・ **梅毒**の報告が4例(30歳代, 70歳代男性及び20歳代, 30歳代女性各1例)(第49週追加報告分1例含む)ありました。いずれも感染地域は国内, 感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は71例となりました。
- ・ **インフルエンザ**は, 市内69の定点医療機関からの報告はありませんでした。全国でも報告数は極めて少なく(定点医療機関数約5,000から37例の報告), 現在のところ流行の兆候はありません。
京都市のインフルエンザの発生状況は下記のホームページをご参照ください。
○京都市のインフルエンザの発生状況(衛生環境研究所)
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000102856.html>
- ・ **感染性胃腸炎**の定点当たり報告数は10.19(438例)で前週8.86(381例)よりさらに増加し, 3週続いて過去5年平均値を上回りました。全国では過去5年平均値を下回って推移しているものの, 45週ごろから増加傾向が続いています。現在のところ, 警報基準値20には達しておらず, 全市的な流行と言える状況ではありません。しかし, 伏見区では24.4まで増加しており, 局所的に流行している恐れもあるため, 今後の動向に注意が必要です。

◆ 今週のトピックス: <エキノコックス症>

今年10月上旬, 愛知県の一部地域でエキノコックス症の原因となる多包条虫が定着しているとの報道があり, 話題になりました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 2例(肺結核 なし, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 なし)
【1月以降の累積報告数 241例(肺結核 84例, その他結核 76例, 潜在性結核感染者 81例)うち喀痰塗抹陽性 42例】
- ・ **新型コロナウイルス感染症 20例**【1月以降の累積報告数21,181例】
- ・ 五類:カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症2例【1月以降の累積報告数 41例】
- ・ 五類:梅毒 4例【1月以降の累積報告数 71例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

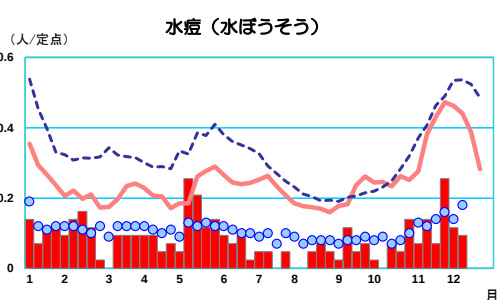
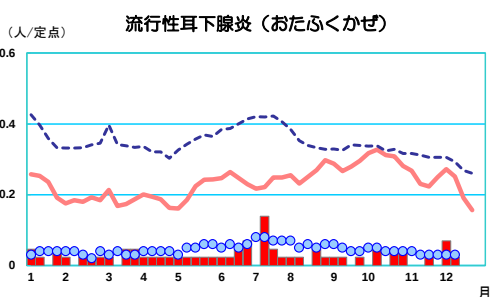
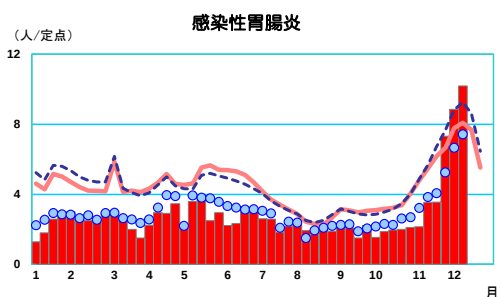
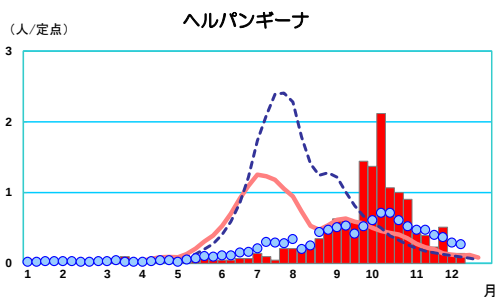
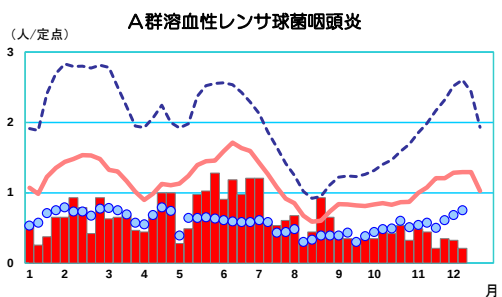
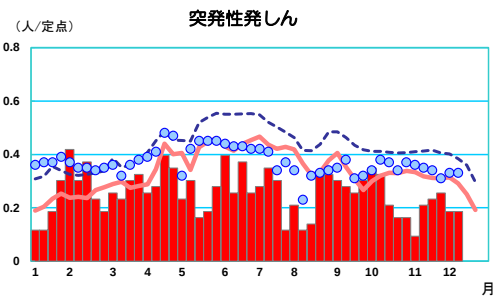
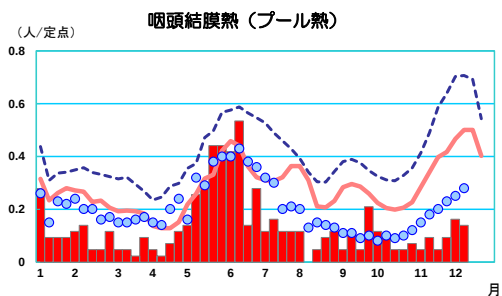
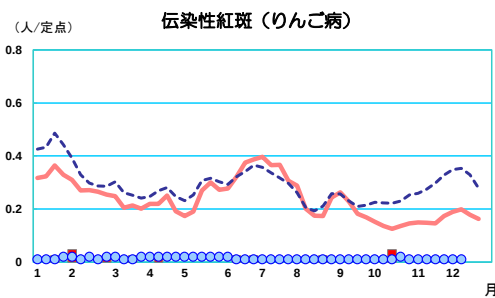
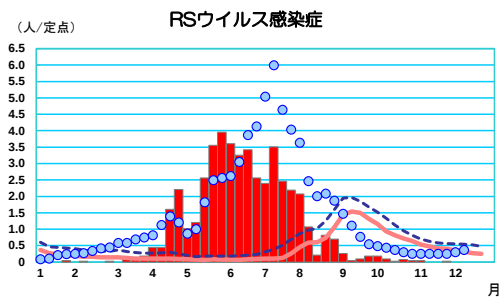
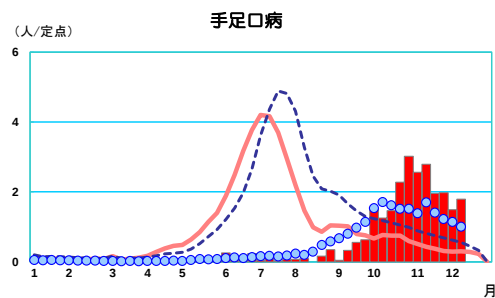
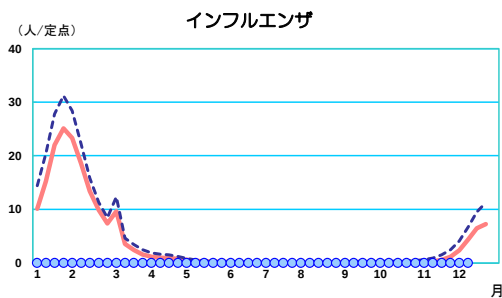
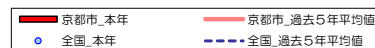
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0. 00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	10. 19	438
	② 手足口病	1. 79	77
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0. 21	9
	④ 突発性発しん	0. 19	8
	⑤ 咽頭結膜熱	0. 14	6
	⑤ ヘルパンギーナ	0. 14	6
眼科	流行性角結膜炎	0. 20	2

【次ページ以降の主な内容】

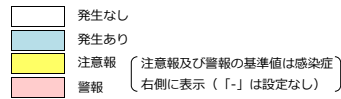
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <エキノコックス症>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは, 2021年12月23日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。
* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

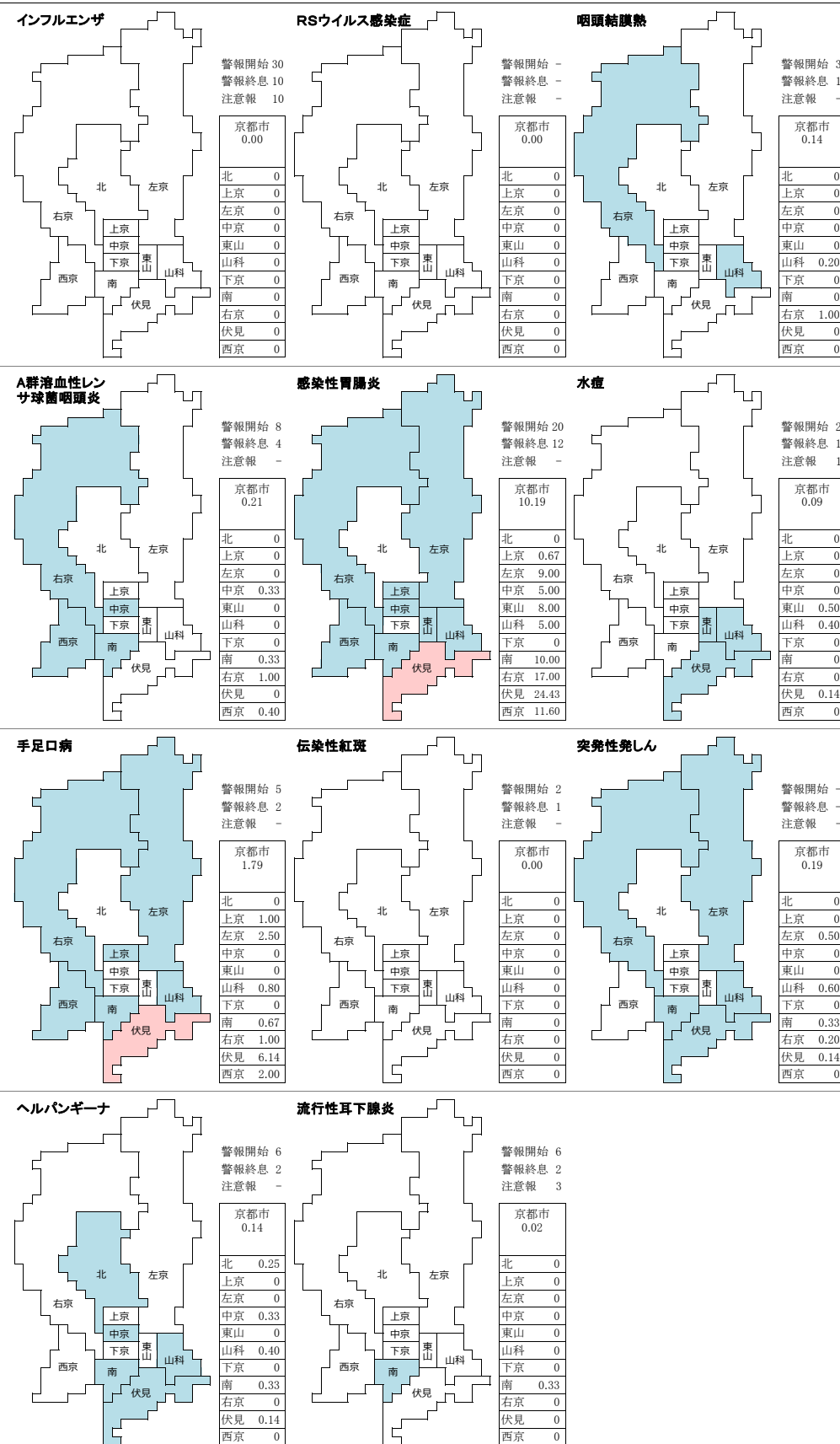
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2021年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2021年 第50週】



定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
したがって、定点当たり報告数は医療機関の立地条件や
規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



第50週(12月13日～12月19日) トピックス: <エキノコックス症>

今年10月上旬、愛知県の一部地域でエキノコックス症の原因となる多包条虫が定着しているとの報道があり(*1)、話題になりました。京都府においてエキノコックス症の報告は1999年までに1例ありましたが、その後の報告はありません。全国では感染症法施行直後の2000年代初頭は報告数が少ない年もありましたが、その後は年間15～30例で推移しています(図1)。日本での発生は北海道に集中しており、全体の約9割が北海道での報告です(表1)。

エキノコックス症はエキノコックス属条虫が原因です。寄生虫には単細胞生物(原虫)と多細胞生物(蠕虫)がありますが、条虫は蠕虫の一種で、成虫の虫体は扁平で真田紐に似ていることから別名「サナダムシ」とも呼ばれます(「条」という漢字も「條(さなだひも)」の代用字です)。その名のとおりに、日本海裂頭条虫や無鉤条虫など10mを超える長さになるものもありますが、エキノコックス属条虫は成虫でも数mm前後と小型です。エキノコックス属条虫は大きく分けて単包条虫と多包条虫がありますが、日本では単包条虫の報告は年間数例のうえ比較的軽症なので(図1)、ここでは多包条虫について扱います。

寄生虫はその一生で、宿主を変えつつ成長するものがあります。このうち幼虫の間を過ごす宿主を中間宿主、成虫となって有性生殖を行う宿主を終宿主といいます。エキノコックス属条虫の場合は、土壌や沢水に存在する虫卵が中間宿主であるネズミへ経口感染して幼虫に成長したあと、そのネズミが終宿主であるキツネやイヌ、タヌキなどのイヌ科動物に食べられることで宿主を乗り換えます(図2)。エキノコックス属条虫はネズミでは幼虫のまま成虫になれず、無性生殖を繰り返して幼虫のまま数を増やします。キツネなどに感染して初めて成虫になり、有性生殖を行って糞便中に虫卵を排出させます。

ヒトは虫卵に汚染された生水を飲んだり、キツネに触った手で口を触ったりして感染します。ヒトの体内では幼虫のまま成虫になれず、幼虫はゆっくり時間をかけて肝臓で増殖し、肝組織を破壊してしまいます。これには長い時間がかかるため、約5～10年は無症状のままですが、肝臓の機能が限界を迎えると黄疸や腹水などの症状が現れます。肝臓だけでなく、肺や脳に移行してさらに多彩な症状を起こすこともあります。こうした症状が現れると、手術で肝臓を切除するしか有効な治療法がなく、治療しなければ発症した人のほとんどが亡くなります。

日本には元々、エキノコックス属条虫はいませんでした。1960年代に北方諸島のキツネが流水を渡ってきたため北海道に侵入したと言われていました。上述のとおり、エキノコックス症の発生は北海道に集中しており、道外での動物の感染例は2013年まで限られていました(表2)。しかし、2014年から現在に至るまで、愛知県で継続的に野犬での感染例が報告されており、本州にもエキノコックス属条虫は定着したと考えられています(*2)。

エキノコックス症のワクチンはないため、予防には生水を飲まないこと、飲食の前にはよく手を洗うこと、野生動物には触らず餌付けをしないこと、イヌを放し飼いにしないこと、野菜や山菜はよく洗って加熱してから食べることなどが重要です。北海道を訪れる際は特に注意が必要ですが、他の地域でも予防を心がけましょう。

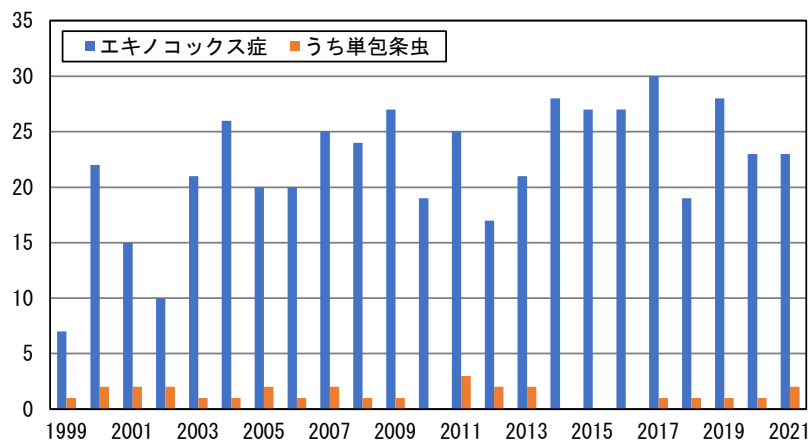


図1. 全国におけるエキノコックス症報告数の推移*

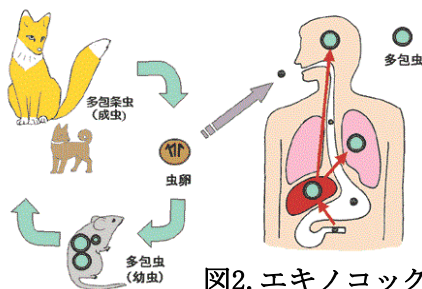


図2. エキノコックス属条虫の生活環*

表1. エキノコックス症の北海道における割合*

	全国	北海道	割合
2006年4月～	13	12	92.3%
2007年	25	22	88.0%
2008年	22	20	90.9%
2009年	27	24	88.9%
2010年	17	16	94.1%
2011年	20	16	80.0%
2012年	17	15	88.2%
2013年	20	17	85.0%
2014年	28	26	92.9%
2015年	25	21	84.0%
2016年	27	27	100.0%
2017年	30	27	90.0%
2018年	19	18	94.7%
2019年	28	26	92.9%
2020年	23	22	95.7%
2021年50週まで	23	19	82.6%
合計	364	328	90.1%

表2. 道外の動物エキノコックス症報告例*

年	都道府県	動物種	報告数・備考
1998	青森県	ブタ	3頭。北海道での飼養歴なし
2005	埼玉県	野犬	1頭。その後、報告なし
2010	山形県	ウマ	41頭。うち25頭に北海道での飼養歴あり、その他不明
2014	愛知県	野犬	1頭
2017	愛知県	野犬	2頭
2018	愛知県	野犬	1頭
2020	愛知県	野犬	3頭
2021	愛知県	野犬	2頭

【参考文献】(以下、全て2021年12月22日閲覧。)

(*1) 福井新聞(2021年10月12日)「寄生虫「エキノコックス」、愛知県で犬の感染相次ぐ」

(<https://www.fukushimbun.co.jp/articles/-/1415703>)

(*2) 厚生労働省事務連絡(2018年3月28日)「愛知県知多半島の犬におけるエキノコックス感染事例について」

(<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-109000000-Kenkoukyoku/0000199951.pdf>)

(%) IDWR「発生動向調査年別報告数一覧(全数把握)」より。99年は4月から、21年は50週まで。

(<https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/news/21/122100626/>)

(&) 国立感染症研究所「エキノコックス症とは」より引用、一部改変。

(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/338-echinococcus-intro.html>)

(#) 図1とは情報源が異なるため、全国の報告数は一致しない。図1の方が新しい情報である。

(\$) 以下の情報を参考に作成。

○IASR(1999,Vol.20,No.10)「エキノコックス症:青森県で感染ブタが検出される」

(<http://idsc.nih.gov/ja/iasr/20/236/dj2369.html>)

○IASR(2005,Vol.26,No.11)「埼玉県内の犬の糞便から検出されたエキノコックス(多包条虫)の虫卵」

(<https://idsc.niid.go.jp/iasr/26/309/kj3092.html>)

○IASR(2010,Vol.31,No.7)「山形県でと畜された軽種馬の肝臓から高率に検出されたエキノコックス」

(<http://idsc.nih.gov/ja/iasr/31/365/kj3657.html>)

○愛知県衛生研究所「愛知県内でエキノコックス陽性犬が発見された地域」

(<https://www.pref.aichi.jp/eiseiken/5f/echinococcus-dogs.html>)

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第50週

疾病,行政区別報告数

2021年12月13日～2021年12月19日

データ入手日:2021年12月23日

	インフル エンザ （※1）	R S ウイルス 感染症	咽 頭 結 膜 熱	頭 炎 A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細 菌 性 髄 膜 炎 （※2）	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	クラ ミ ジ ア 肺 炎 （※3）	感 染 性 胃 腸 炎 （※4）
男女合計																		
北	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-					
上京	-	-	-	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-					
左京	-	-	-	-	36	-	10	-	2	-	-	-	-					
中京	-	-	-	1	15	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	16	1	-	-	-	-	-							
山科	-	-	1	-	25	2	4	-	3	2	-	-	2					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
南	-	-	-	1	30	-	2	-	1	1	1							
右京	-	-	5	5	85	-	5	-	1	-	-	-	-					
伏見	-	-	-	-	171	1	43	-	1	1	-	-	-					
西京	-	-	-	2	58	-	10	-	-	-	-	-	-					
京都市計	-	-	6	9	438	4	77	-	8	6	1	-	2	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフル エンザ （※1）	R S ウイルス 感染症	咽 頭 結 膜 熱	頭 炎 A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細 菌 性 髄 膜 炎 （※2）	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	クラ ミ ジ ア 肺 炎 （※3）	感 染 性 胃 腸 炎 （※4）
男女合計																		
北	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.25	-	-	-					
上京	-	-	-	-	0.67	-	1.00	-	-	-	-	-	-					
左京	-	-	-	-	9.00	-	2.50	-	0.50	-	-	-	-					
中京	-	-	-	0.33	5.00	-	-	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	8.00	0.50	-	-	-	-	-							
山科	-	-	0.20	-	5.00	0.40	0.80	-	0.60	0.40	-	-	2.00					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
南	-	-	-	0.33	10.00	-	0.67	-	0.33	0.33	0.33							
右京	-	-	1.00	1.00	17.00	-	1.00	-	0.20	-	-	-	-					
伏見	-	-	-	-	24.43	0.14	6.14	-	0.14	0.14	-	-	-					
西京	-	-	-	0.40	11.60	-	2.00	-	-	-	-	-	-					
京都市計	-	-	0.14	0.21	10.19	0.09	1.79	-	0.19	0.14	0.02	-	0.20	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。
※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。
※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。
※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3202

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第50週

年齢階級, 疾病別報告数

2021年12月13日～2021年12月19日

データ入手日:2021年12月23日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳－	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳以上						
男女合計	年齢4	総数	0歳	1歳－	5歳－	10歳－	15歳－	20歳－	25歳－	30歳－	35歳－	40歳－	45歳－	50歳－	55歳－	60歳－	65歳－	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
RSウイルス感染症	年齢3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽 頭 結 膜 熱		6	－	－	2	2	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		9	1	－	1	2	－	1	－	1	1	－	－	1	－	1						
感染性胃腸炎		438	2	22	88	91	59	41	37	28	14	3	10	14	4	25						
水 痘		4	－	－	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	1	1						
手 足 口 病		77	－	6	27	29	8	2	1	1	1	－	－	2	－	－						
伝 染 性 紅 斑		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
突発性発しん		8	－	2	5	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		6	－	－	3	2	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
流行性耳下腺炎		1	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳－	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳以上						
男女合計	年齢4	総数	0歳	1歳－	5歳－	10歳－	15歳－	20歳－	25歳－	30歳－	35歳－	40歳－	45歳－	50歳－	55歳－	60歳－	65歳－	70歳以上				
インフルエンザ ^{※1)}	年齢1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
RSウイルス感染症	年齢3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽 頭 結 膜 熱		0.14	－	－	0.05	0.05	0.05	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.21	0.02	－	0.02	0.05	－	0.02	－	0.02	0.02	－	－	0.02	－	0.02						
感染性胃腸炎		10.19	0.05	0.51	2.05	2.12	1.37	0.95	0.86	0.65	0.33	0.07	0.23	0.33	0.09	0.58						
水 痘		0.09	－	－	－	－	0.02	0.02	－	－	－	－	－	－	0.02	0.02						
手 足 口 病		1.79	－	0.14	0.63	0.67	0.19	0.05	0.02	0.02	0.02	－	－	0.05	－	－						
伝 染 性 紅 斑		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
突発性発しん		0.19	－	0.05	0.12	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		0.14	－	－	0.07	0.05	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
流行性耳下腺炎		0.02	－	－	－	－	－	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		0.20	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.20	－	－	－	－	－	
細菌性髄膜炎 ^{※2)}	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
クラミジア肺炎 ^{※3)}		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
感染性胃腸炎 ^{※4)}		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第50週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2021年12月23日

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		－	－	－	－	－	－
RSウイルス感染症		2	－	－	1	－	－
咽 頭 結 膜 熱		2	4	2	4	7	6
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		21	19	9	15	14	9
感染性胃腸炎		92	152	153	315	381	438
水 痘		3	6	3	11	5	4
手 足 口 病		110	120	84	85	64	77
伝 染 性 紅 斑		－	－	－	－	－	－
突発性発しん		4	9	10	11	8	8
ヘルパンギーナ		18	17	10	22	6	6
流行性耳下腺炎		－	－	1	－	3	1
急性出血性結膜炎		－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		－	－	1	－	1	2
細菌性髄膜炎 (※2)		－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－
合 計		252	327	273	464	489	551

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		－	－	－	－	－	－
RSウイルス感染症		0.05	－	－	0.02	－	－
咽 頭 結 膜 熱		0.05	0.09	0.05	0.09	0.16	0.14
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.49	0.44	0.21	0.35	0.33	0.21
感染性胃腸炎		2.14	3.53	3.56	7.33	8.86	10.19
水 痘		0.07	0.14	0.07	0.26	0.12	0.09
手 足 口 病		2.56	2.79	1.95	1.98	1.49	1.79
伝 染 性 紅 斑		－	－	－	－	－	－
突発性発しん		0.09	0.21	0.23	0.26	0.19	0.19
ヘルパンギーナ		0.42	0.40	0.23	0.51	0.14	0.14
流行性耳下腺炎		－	－	0.02	－	0.07	0.02
急性出血性結膜炎		－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		－	－	0.10	－	0.10	0.20
細菌性髄膜炎 (※2)		－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－
合 計		5.86	7.60	6.43	10.79	11.45	12.97

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。